

日頃の備えが大切!

住まいを安全に

アパートなどを借りる際は、安全な地域で耐震性のある建物を選んでください。自治体では、地震、津波、水害などのハザードマップを公表しています。家具転倒防止やガラス破損対策をして、大地震時の室内安全を確保してください。自宅が古い（特に1981年以前）建物の場合は、耐震診断、耐震改修を検討してください。

非常持ち出し品を準備

災害時に必要なものは一人ひとり違います。持病の薬や眼鏡のスペアなど、必要なものをリストアップして準備しておきましょう。また、誰にも共通して必要なものは、食料や水（1週間～10日分）、現金や保険証などの貴重品、ラジオ、懐中電灯、衣類などがあります。大学や外出先で災害にあうこともありますので、小型のラジオ、ライト、携帯電話の充電器（電池式）、非常食などをカバンに入れておく役に立ちます。

避難場所と避難経路、帰宅方法を確認

自宅や職場近くの避難場所・避難所と、そこまで安全にたどり着くまで安全な避難経路を確認しておきましょう。名古屋市のホームページには「ナゴヤ避難ガイド」が掲載されています。指定された場所に限らず、家族で落ち合う安全な場所をあらかじめ決めておくことも重要です。海岸に近い場所では、津波からの避難に特に注意してください。また、災害時の帰宅方法もチェックしておきましょう。大災害時には、無理に帰宅しようとせず、大学等の安全な場所にとどまることも重要です。大学や地域で実施される防災訓練にも積極的に参加しましょう。

大規模災害発生時の心のケア

大規模災害発生時には、心身ともに調子を崩すことは珍しくありません。不安、不眠、落ち着かないなどの心配があれば学生相談センターに連絡してください。

https://www.gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/student_support/scc.html（学生相談センター）

非常時の連絡方法を確認しよう

大規模災害発生時には、家族、友人、大学と連絡を取る方法が大変重要です。一般の電話や携帯電話（音声）は非常につながりにくくなります。その場合、災害伝言ダイヤル171や携帯電話の災害伝言サービスなどを活用しましょう。大学への連絡は、安否確認システム（ANPIC）を使いましょう。

緊急連絡用メールアドレス

大学からの緊急連絡や安否確認システム（ANPIC）に使用されます。学生・教職員に毎年1回義務付けられている「年次情報セキュリティチェック」で登録します。5月と10月には安否確認システムを利用した防災訓練が実施されます。4月中に登録を済ませるようにしましょう。

災害用伝言ダイヤル171（いない）

171番に電話をかけて、音声ガイダンスに従い「被災地内の電話番号（市外局番を含む）を入力すると、安否等の伝言を1伝言あたり30秒、計10伝言まで預かってくれるサービスです。原則、災害時のみの利用ですが、毎月1日、15日、防災週間（防災の日（9月1日）を含む1週間、正月三が日（1月1日～1月3日）、及び防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）に体験することができます。

<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/>（NTT西日本）

災害用伝言板（web171）

ブロードバンドの特性を生かし、音声や画像も登録できます。
<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>（NTT西日本）

携帯電話の災害用伝言板サービス

携帯電話のデータ通信では、災害時には「災害用伝言板」がトップメニューに表示され、その伝言板を利用して安否確認の連絡ができます。詳細は、携帯各社の資料を調べてください。安否連絡先の事前登録機能もあります。

名古屋大学安否確認システム（ANPIC）

名古屋大学では、災害時に学生・教職員の安否確認を進めるため、「安否確認システム（ANPIC）」を用意しています。以下の手順で災害時の安否確認にご協力ください。年2回の防災訓練で使用しますので、緊急用メールアドレス登録など、できるだけ早めに準備しておいてください。

①緊急連絡用メールアドレスの登録

「年次情報セキュリティチェック」で登録を行います。学外でも受信できる携帯電話などのメールアドレスを登録してください。

②登録されたメールアドレスに名古屋大学安否確認システム（ANPIC）から一斉メール発信

災害が発生すると、大学から安否確認一斉メールが発信されます。送信元アドレス：no-reply@jecc.jp

③メールの受信と安否状況の入力

一斉メールの指示に従い、安否確認システムに接続し、本人の安否状況や関連情報を入力してください。なお、メール中に記載されたURLへのアクセスを回避したい場合は、スマートフォン用アプリによる方法もあります。
(https://www.saigai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=1016)

2023年度版 名古屋大学防災ガイド [地震・風水害]

地震災害・風水害に備えて

大学生生活を安心して送るために

名古屋大学が位置する東海地域では、近い将来に南海トラフ沿いの大地震による大災害の発生が予測されています。これに加えて、近年は、ゲリラ豪雨や台風に伴う風水害が日本各地で頻発しています。名古屋大学で学ぶにあたって、地震や豪雨・台風から命を守り、災害に適切に対応するために、住まいの選択や室内の安全対策、非常用品の準備、および避難方法や避難行動の目安確認などが必要です。また、大学内には、実験機器・薬品や重量什器など、地震時に危険なものも多数あります。地震災害や風水害を人ごとと考えず、是非、事前の備えをしておきましょう。

東海地域で想定される大地震

①南海トラフ沿いで発生する大地震

太平洋沿いの相模湾から日向灘沖にかけての「南海トラフ」と呼ばれるプレート境界では、概ね100～150年間隔で大地震が繰返し発生し、その度に甚大な被害を及ぼしてきました。最近の地震は1944年昭和東南海地震と1946年昭和南海地震です。これらの地震から既に約75年が過ぎており、次の大地震が近づいていると予想されます。2011年東日本大震災に匹敵する地震の規模を表すマグニチュードで9程度の大地震が発生する可能性もあり、その場合には、右図のように広域で震度6弱以上の強い揺れが推定されています。また、揺れは数分以上続くので、その間身の安全を守る行動をとりましょう。

②高さ10m以上の大津波

地震が海底で起きた場合には、大きな津波も発生します。南海トラフの地震では、太平洋に面した沿岸地域で高さ10m以上の大津波が短時間で襲来すると推定されています。海岸近くで揺れを感じたら、すぐに海岸から離れできるだけ高い場所に避難しましょう。

南海トラフ巨大地震について確認しよう! <https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/leaflet.html>

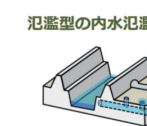
豪雨・台風による被害

内水氾濫・外水氾濫（洪水）と暴風

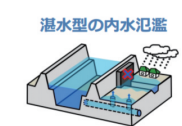
浸水被害には、雨量が下水道などの排水能力を上回ったときに発生する「内水氾濫」と、堤防を越えて水があふれたり堤防が決壊して河川の水や土砂が流出する「外水氾濫（洪水）」があります。いずれの場合も、発生までに時間の猶予があるので、早めの安全確保が大切です。また、暴風警報発表の目安となる平均風速20m/sを越えるような非常に強い風では、何かにつかまっていなくて歩けない、あるいは飛来物によって怪我をする可能性があります。浸水の可能性が低い場合は、できるだけ外出を控えることが大切です。



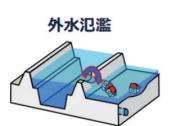
非常に強い風（20m/s以上）
（イラストは気象庁提供）



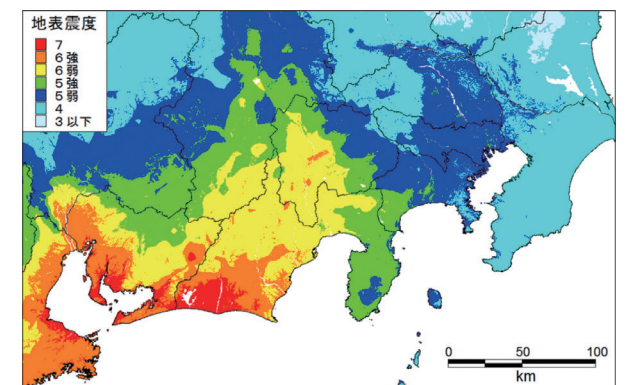
氾濫型の内水氾濫
短時間強雨等により雨水の排水能力が追いつかず、発生する浸水。
河川周辺地域とは異なる場所でも発生する。



湛水型の内水氾濫
河川周辺の雨水が河川の水位が高くなったため排水できず発生。
発生地域は堤防の高い河川の周辺に限られる。



外水氾濫
河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破壊するなどして堤防から水があふれ出す。



南海トラフ地震における推定震度分布（内閣府による）



1995年阪神淡路大震災における建物被害



名古屋市「東海豪雨水害に関する記録」より

風水害について学ぼう! https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/ame_chuui/ame_chuui_p1.html

大地震が発生したら……

自分の身を守る（最初の数秒）

揺れを感じたとき、または緊急地震速報（3ページ参照）が鳴ったときは、直ちに危険な家具や器具などから離れて、丈夫な机の下などで身の安全を図ります。特に頭を守るように留意しましょう。可能なら扉を開けて避難経路を確保します。

揺れがおさまったら（2～3分）

落ち着いて火を止め、電気のブレーカーも落とします。周辺の人々の無事を確認し、余震に注意して、建物外に避難します。避難にはエレベーターを使わないこと。

避難したら（5～10分）

情報や指示をよく理解し、建物外の安全なところに避難したら、パニックや二次災害を防ぎましょう。

安全に気を付けて消火や救助の支援（1～数時間）

大災害時は救助も遅れがちになります。自分の安全が確保できる範囲で、消火や救助活動などを手伝いましょう。

家族や友人、大学などとの連絡（1日程度以内）

あらかじめ決めておいた方法（8ページ参照）などにより互いに連絡をします。大学には安否確認システム（8ページ参照）により、居場所やけがの状態などを伝えましょう。

講義中だったら……

書棚や吊り下げテレビなどから離れ、机の下などで身の安全を確保します。実験機器や薬品などを使用している場合はすぐに離れ、揺れがおさまったら可能な範囲で始末します。教員の指示に従って行動してください。

エレベーターの中に居たら……

すべての階のボタンを押してください。万一、閉じ込められた場合は、インターホン等を押して、管理センターや建物内の方に通報してください。扉の外に人の気配がしたら、音を出して存在を知らせてください。非常用備品ボックスが設置されている場合は、これを活用して救助・復旧を待ってください。

学内の避難

大勢で出口や階段に殺到すると大変危険です。学内の各建物では、教職員や「自衛消防隊」が避難誘導します。建物ごとに「一次避難場所」が決められています（4～5ページ参照）ので、指示に落ち着いて従い避難してください。

通学途中だったら……

歩いているときは、ブロック塀や自動販売機、看板、ビルのガラス、切れた電線など危険物から離れます。カバン等で頭を守って、公園や広場などの安全な場所へ。

電車や地下鉄、バスなどに乗っていたら……

車内放送を聞き、落ち着いて係員の指示に従います。勝手にドアを開けて外に出ないこと。対向車両などの危険があります。

デマに惑わされない

学外の場合、自治体や消防機関・警察機関の指示に従い、ラジオやテレビ、広報車等から情報収集をしましょう。



転倒した書棚に潰されたテーブル



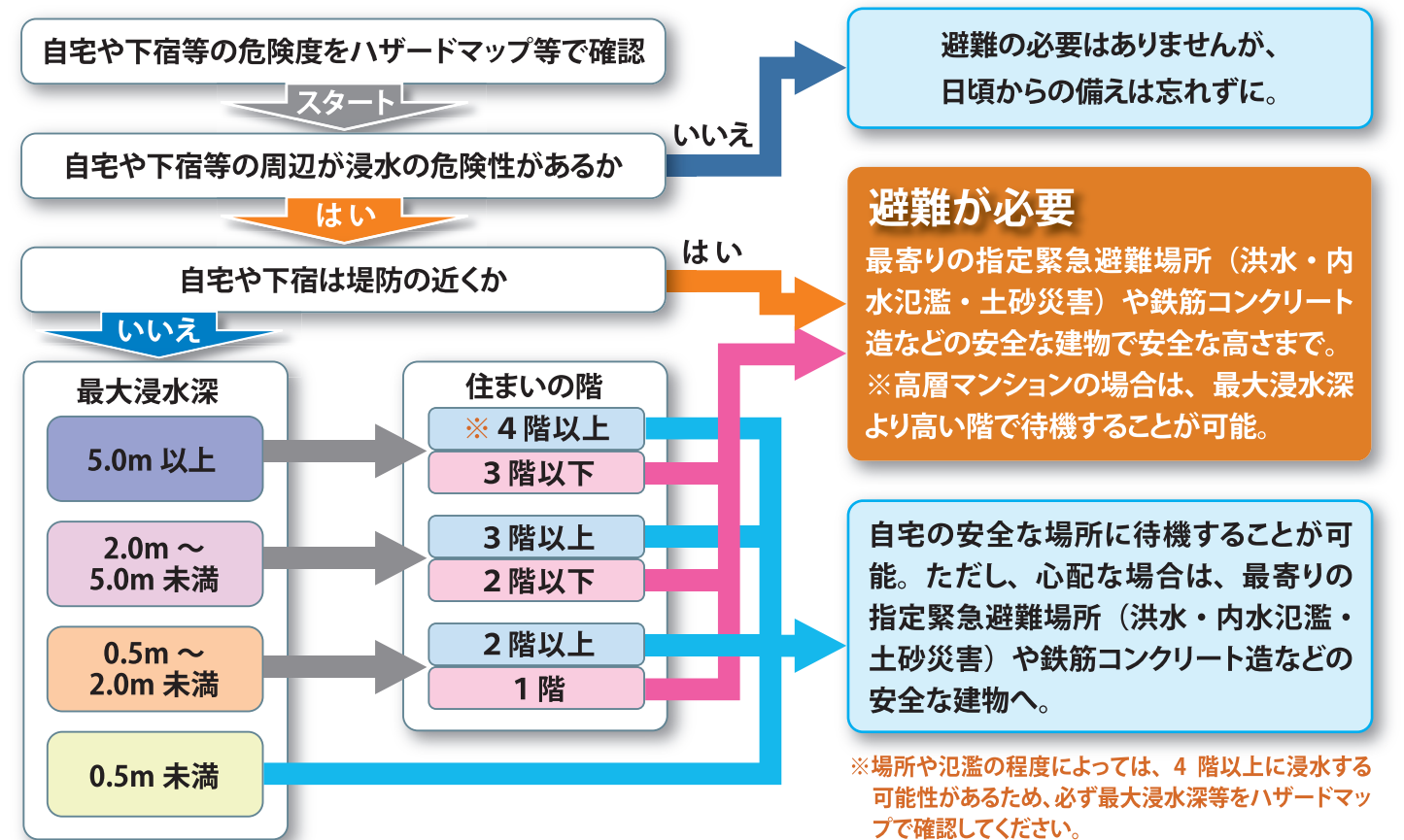
機材が散乱した化学実験室



倒壊した石塀

避難行動の目安

氾濫の危険性がある地域で、大雨の恐れがある場合には、下記のフロー図で確認し、浸水が発生する前に適切な行動をとってください。



風水害発生時の避難

運動靴をはく

長靴は水が中に入ると歩きにくくなるので、履きやすい紐靴を履きましょう。自動車や自転車による避難はやめましょう。非常持ち出し袋は背負うことで手を自由におきましょう。また、浸水が始まったら、原則避難はしないことが望ましいですが、どうしても避難の必要がある場合には、長い棒などを杖にして歩くことで窪みや溝を避けられます。

浸水深がひざの高さを超えたら……

避難行動に危険が伴ってくるので、無理をせず周辺の安全な建物へ避難しましょう。

家族や友人、大学などとの連絡

2ページ参照

デマに惑わされない

2ページ参照

避難場所や経路の確認

3ページ参照

近所の助け合いを

隣近所に声掛けするとともに、病人や歩行困難な人は、背負って避難をしましょう。

風水害に関する情報収集先

ポータルサイト（ハザードマップ等）

名古屋市（災害に備える）

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/405-5-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

国土交通省 川の防災情報

<https://www.river.go.jp/index>

国土地理院 治水地形分類図

<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/bousaichiri41045.html>

水位の情報

道路・河川等監視情報システム

https://www.rdcamimage.city.nagoya.jp/public_html/

気象の情報

気象庁ホームページ

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

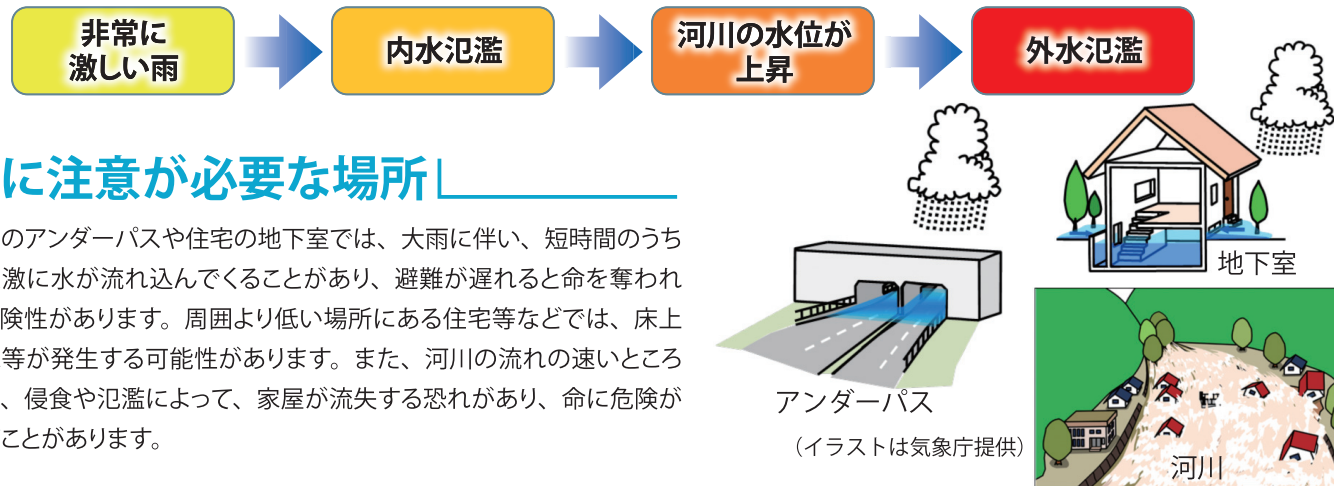
避難の情報

名古屋市公式ウェブサイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

雨が降り始めて、氾濫が発生するまで

雨が降り始めてから氾濫発生までには、一定の猶予時間があります。自分が住む場所の水害ハザードマップや土地条件図（治水地形分類図を含む）、住まいの階数、気象庁が発表する防災気象情報や自治体から発表される避難情報等を参考に、早めに適切に安全確保してください。



特に注意が必要な場所

道路のアンダーパスや住宅の地下室では、大雨に伴い、短時間のうちに急激に水が流れ込んでくることがあり、避難が遅れると命を奪われる危険性があります。周囲より低い場所にある住宅等などでは、床上浸水等が発生する可能性があります。また、河川の流れの速いところでは、侵食や氾濫によって、家屋が流失する恐れがあり、命に危険が及ぶことがあります。

気象庁が発表する防災気象情報と取るべき行動

気象庁では、気象災害を防止・軽減するために特別警報・警報・注意報や早期注意情報などの防災気象情報を発表し、段階的に注意や警戒を呼びかけています。以下に掲載した各情報の発表タイミングや内容と、自治体からの避難情報に従い、取るべき行動について適切に判断できるように普段から備えておきましょう。

気象の状況	気象庁などの情報			自治体からの避難情報	取るべき行動	警戒レベル
大雨の数日 ～約1日前	早期注意情報 (警報級の可能性)				災害への心構えを高める	1
大雨の半日 ～数時間前	大雨注意報 洪水注意報	高潮 注意報	氾濫注意 情報		自らの避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクや避難情報の把握手段等を再確認する。	2
大雨の数時間 ～2時間程度前	大雨警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	高潮警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	氾濫警戒 情報	高齢者等 避難	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の人でも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難準備をしたり、自主避難をする。	3
	土砂災害 警戒情報	高潮 警報	高潮 特別警報	氾濫危険 情報	危険な場所から全員避難 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
警戒レベル4までに必ず避難する						
数十年に一度の 大雨	大雨 特別警報			氾濫発生 情報	緊急安全確保 (必ず発表される情報ではない)	5
					いのちの危険、直ちに安全確保 安全な場所に避難できておらず、命が危険な状況。今いる場所の周辺でより安全な場所へ直ちに移動する。	

気象庁 HP を参考に修正

警報発表時の大学の授業や試験

名古屋大学では、授業、定期試験等を実施する場所において、各種特別警報若しくは暴風警報が発令された場合には、発令後に開始される授業等が休講となります（ICT を使った遠隔による授業等を実施する場合を除く）。詳しくは名古屋大学ポータルサイト等を確認してください。

大学の室内の地震防災対策

什器や機材の転倒・落下・破損などの防止

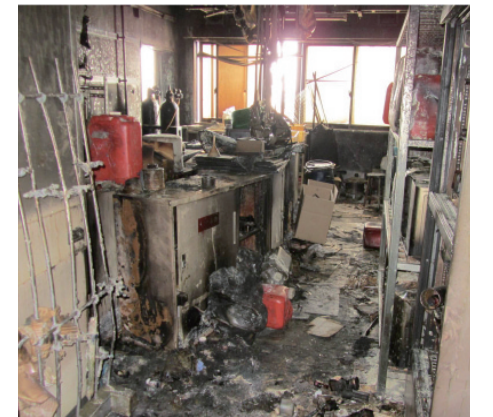
名古屋大学では「家具安全対策ガイドライン」があり、危険な家具は全て固定することになっています。背の高い書棚やロッカーは転倒しないように固定し、パソコンやテレビ、重い書籍や破損しやすい機材は落下防止対策を確実にいきましょう。キャスターのついた機器は、臨時に固定する方法もあります。



転倒すると通路をふさぐ棚（名大の例）

実験装置や薬品の危険防止

実験室では、重く壊れやすい実験機材が多く、危険で有害な薬品やガスなども使用しています。日頃から危険な薬品等の整理・収納を徹底するとともに、地震時の安全のために機器や収納棚の固定や破損防止、薬品漏洩防止などの対策や、消火器の設置などをしましょう。大地震の際には、無理のない範囲で装置を安全に停止し、火気の始末等を行います。また、薬品火災などに備えて適切な対応方法を事前に確認しておいてください。固定が困難な機器は災害対策室に相談してください。



揺れによる化学実験室の火災跡（東北大学）

避難場所や経路の確認

各建物の近くの一次避難場所や避難経路が決まっています。あらかじめ確認し、スムーズに避難できるようにしましょう。また、階段や非常口などに荷物を決して置かないように。

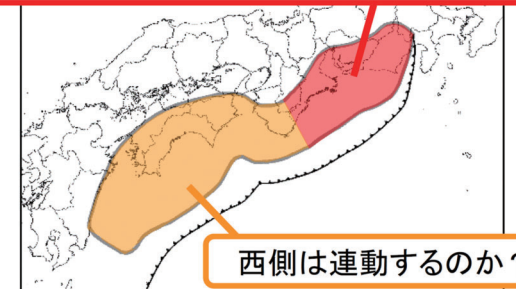
みんなで確認して備えましょう

非常時には互いの助け合いが必要です。教室や研究室では、防災訓練（年2回）に参加して、非常時の対応を確認しましょう。特に障がい者や留学生などは避難のサポートが大切です。研究室などでは、教員との緊急連絡方法の確認や災害時の非常持ち出し品の準備なども行いましょう。

南海トラフ地震臨時情報が発表された場合

2019年5月31日から南海トラフ地震臨時情報が発表されることになりました。これは、南海トラフ沿いで異常な現象が観測されたり、大地震発生の可能性が高まったと判断されたときに発表されます。情報には、状況に応じて、「調査中」、「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」、および「調査終了」があります。大規模な地震発生が切迫していると判断された場合には「巨大地震警戒」が発表され、日頃の災害への備えを再確認するとともに、発表後1週間程度は津波襲来の危険性がある地域では、事前の避難が必要となります。（名古屋市の事前避難対象地域は、津波の到達前に、地震動に伴う堤防沈下の影響により概ね地震発生から30分以内に、30cm以上の浸水が生じる地域が指定されています。）大学では、授業の実施や帰宅など、大学の指示に従って行動し、併せて各自で情報収集に努め、日頃の備えを確認してください。

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生



西側は連動するの？

「巨大地震警戒」が発表される可能性があるケースの例（西側で先に大地震が発生するケースも考えられる）

（内閣府資料より）

名古屋市 HP
(<https://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000111204.html>)

緊急地震速報について

緊急地震速報は、震源近くで地震の発生をキャッチして、少し離れたところに地震の大きな揺れが伝わる前に警報を出すしくみです。名古屋大学内では、屋外放送スピーカーや多くの建物の館内放送を通じて放送されます。この情報を受けたときは、慌てずにまず身の安全を守る行動をとりましょう。また、2023年2月1日より、長周期地震動階級 (https://www.data.jma.go.jp/eew/data/ltpgm_explain/about_level.html) で3以上を予想した場合でも、緊急地震速報が発表されることとなりました。緊急地震速報は日頃からどうすれば身の安全を守れるかを考えておくと、いざというときに落ち着いて行動できます。詳しい情報は気象庁ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/>) などで入手することができます。

大地震発生時の一次避難場所

東山キャンパス



- 一次避難場所
- (臨時)一次避難場所
- 避難先指示
- (臨時)避難先指示
- 災害対策本部 (減災館/災害対策室)
- 災害時救護センター

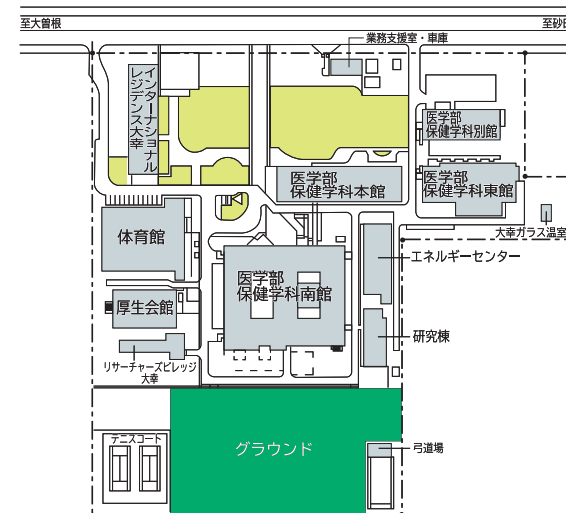
一次避難場所は、大地震などの災害発生時にまず避難する建物周辺の安全な場所で、建物ごとに指定されています。ここで安全を確認し、大学からの指示を待って行動してください。

※建築工事に伴い、臨時の一次避難場所を提示しています。

鶴舞キャンパス



大幸キャンパス



緊急時の学内連絡先

- ◆**東山地区** 本部守衛室に連絡を
携帯から 本部守衛室 052-789-2111
内線は 同 上 110,119
- ◆**鶴舞地区** 防災センターに連絡を
携帯から 防災センター 052-744-2939
内線は 同 上 5555
学生関係 医学部学務係 052-744-2430
- ◆**大幸地区**
総務係 052-719-1504
学生関係 教務学生係 052-719-1518
守衛室 052-719-1829

○学部等教務学生係等 (平日昼間のみ)

●東山キャンパス

- 文学部 789-2206
- 教育学部 789-2606
- 法学部 789-2317
- 経済学部 789-2357
- 情報学部 789-4823
- 理学部 789-2808
789-5756
- 工学部 789-3599
- 農学部 789-4010
- 国際開発研究科 789-4957
- 情報学研究科 789-4721
- 多元数理科学研究所 789-5756
- 環境学研究科 789-4272
- 創薬科学研究科 747-6780
747-6775
- 教養教育院事務室 789-4725
- 災害対策室 788-6040
- 保健管理室 789-3970
- 学生相談センター 789-5805
- 名古屋第二赤十字病院 832-1121(代)
- 名古屋大学医学部附属病院 741-2111(代)

連絡先は変更になる場合があります。災害時には電話が繋がらないことがありますので名古屋大学のホームページを確認してください。